

かせいせつきん
 火星接近2018

2018年7月

この夏は、火星が地球に大接近だいせつきんしています。最も接近するのは7月31日です。きっとテレビや新聞でも多く取り上げられるでしょう。夜空で、赤くて明るい星としてとても目立つようになります。

火星の地表の様子は、ふだん地球からはなかなか見られません。でも、地球に接近する時には観察できます。(図1)

火星は2年と2ヶ月くらいの周期で地球に接近します。そして15~17年目には特に接近して「大接近」とよばれます。



図1. 2003年の火星

今回は、2003年以来15年ぶりとなります。そう聞くと、まるで空を見上げた時に月と同じくらいの大きさで見えるような気がしますが、実際じっさいはそんなに大きくは見えません。写真のような火星は、大接近の時に望遠鏡を使うと見ることができます。

火星は、地球のひとつ外側の軌道きどうを回っている惑星で、地球とよく似た星です。同じ岩石質がんせきしつの惑星で、水が流れた跡あとなどが発見されたことから、かつてたくさんにの水があったのではないかと考えられています。地表には酸化鉄さんかてつを含む赤茶けた大地が広がっていて、北極と南極にはドライアイスがあり、空は主に二酸化炭素にさんかたんそでできた空気にで覆おおわれています。また、地軸ちじくが25度(地球は23.4度)傾かたむいているので、火星にも季節があり、季節によって、雲が発生したり、砂嵐すなあらしが起きたりします。

今年は、火星の近くにさそり座の「アンタレス」という赤い星があります。アンタレスには“火星に似たもの”とか“火星たいこうに対抗するもの”という意味があります。どちらが赤くて明るいか、皆さんの目で確かめてみてくださいね。

★富山市天文台の星空観察会では、9月ごろまで望遠鏡で火星を観察できます。

また、大接近時の7月31日には富山市科学博物館前かせいせつきんたいかんぼうかいで「火星接近大観望会」を行います。みなさんの参加をお待ちしています！

(天文担当 竹中萌美)

図2. 最近の南の空のようす(夜9時~10時ころ)

